

平成29年度
事業計画書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を積極的に展開する。
- (2) 「立山・黒部」世界文化遺産登録へ向けて博物館の視点から積極的な情報発信を行う。
- (3) 立山黒部アルペンルートの玄関口に立地することから、要望が多い立山の風土を紹介する展示等の事業を行う。

2 展示事業

(1) 常設展示

立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介する。団体客に対しては、学芸員等が来館目的に沿った解説を行う。

①大型映像ホール

3D映像の投影 「3Dタイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」
「立山カルデラ 大地のドラマ」、「崩れ」

②立山カルデラ展示室

立山カルデラや立山の自然と歴史を展示

③SABO展示室

立山カルデラの砂防事業を展示

④砂防展示コーナー

世界文化遺産登録に向けて立山カルデラの砂防施設(白岩砂防えん堤等)、最近の砂防や土砂災害についての情報等を展示

(2) 企画展、特別展

①特別展「立山へ行こうー特異な自然の魅力と脅威を教えますー」

4月15日(土)～7月17日(日)

立山や立山カルデラの特異な自然について、上昇する山、氷の山、火の山、水の山の観点からフィールドを訪ねる感覚で紹介する。

②土砂災害防止月間特別展「地震と土砂災害」

6月3日(土)～7月17日(日)

土砂災害防止月間にちなんで、災害を起こす自然現象や実際に起きた災害を紹介する。

③企画展「黎明期の富山の土木ー高田雪太郎史料からー」

7月22日(土)～9月24日(日)

県に寄贈された明治期の技師高田雪太郎史料から、新たに解明された事実も含めて、富山の黎明期の土木(治水)について探る。

④特別展「火山の国に生きる」

9月30日（土）～12月24日（日）

全国火山系博物館ネットワークの巡回展。日本の代表的火山の活動とそこで起きた火山災害を、立山の火山活動も含めて紹介する。

⑤写真展「素晴らしい自然を」

1月13日（土）～2月12日（月）

日頃から自然に接している自然保護協会の皆さんや学芸員が感じた、自然の素晴らしさや大切さを表現した写真を紹介する。

⑦特別展「映像でみる立山・立山カルデラ・砂防」

2月17日（土）～3月4日（日）

大災害をもたらす自然現象をとらえた貴重な映像や、土砂災害防止のため日々行われている砂防事業に関する映像を紹介する。

⑧公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラ ―大地と人の記憶―」

3月10日（土）～4月15日（日）

立山や立山カルデラ、常願寺川一帯の大地や人の営みをテーマに、魅力ある作品を紹介する。

3 立山カルデラ砂防体験学習会

博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れて、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について体験しながら理解を深めてもらう体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所の協力を得て実施する。

平成25年度より実施している、砂防の背景である常願寺川流域全体の特徴的な自然、過去に起きた災害や砂防工事の歴史等を組み合わせ、流域全体として世界文化遺産登録を理解してもらうコースを、継続して実施する。

(1) 実施時期 7月～10月

(2) 実施回数 48回

① トロッココース 30回（個人15回、トロッコ団体15回）

② バスコース 14回（バス5回、文化遺産6回、常願寺川下流3回）

③ バスコース（団体専用） 4回

(3) 解説員 富山県砂防ボランティア協会、立山神通砂防スペシャルエンジニア、博物館ボランティア解説員

4 「立山・黒部」世界文化遺産登録に向けての情報発信

(1) 外国人への情報発信の充実

（3D映像の英語・中国語対応、2F常設展示の英語・中国語・韓国語対応）

(2) 映像ホールにて、3D映像「3Dタイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」を上映

- (3) 大型映像装置（103 インチ）による映像「立山・黒部 世界遺産に向けて」をエントランスホールにおいて常時放映
- (4) 世界文化遺産登録に向けて白岩砂防えん堤等を 2 階に砂防常設展示コーナーを設けて常時紹介
- (5) 特別講演会「日本の砂防、富山の砂防（仮）」の開催
- (6) 「『立山・黒部』を誇りとし世界に発信する県民の会」との連携による講演会等の実施
- (7) 受付にて、常願寺川流域全体の世界的に見ても特色ある自然・歴史・砂防の事象について、博物館の視点から総合的に解説した冊子を製作・販売
- (8) 受付にて、世界遺産関連書籍の委託販売（日本固有の防災遺産、暴れ川と生きる）
- (9) 立山カルデラや砂防を解説した「立山カルデラたんけんブック」を小学生に配付

5 普及事業

(1) 学校行事における児童生徒の利用促進

飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を、児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を積極的に勧誘する。

学芸員等が来館のニーズに応じたきめの細かいガイダンスを行うとともに、学校関係者の来館に際して館情報を入手しやすくするためホームページに専用ページを設ける。

(2) 解説ボランティアの配置

博物館の展示について、来館者により理解を深めてもらうため、繁忙期の土・日・祝日は、解説ボランティアが館内の展示等に対する説明を行う。また、GW期間中には、富山国際大学の協力を得て、留学生に解説ボランティアの通訳を依頼し、外国人観光客により理解を深めてもらう取り組みを行う。

(3) フィールドウォッチング

①春の立山・雪の大谷 5月7日（日）

「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探る。

②材木坂と美女平 5月28日（日）

立山禅定道である材木坂を美女平までたどり、独特の地質や植物について観察。

③称名滝探勝ジオツアー 7月1日（土）※予定

立山の火山と常願寺川が 10 万年かけて創造した景観の謎について紐解く。

④立山の氷河眺望 8月26日（土）

雄山の登山道をたどりながら氷河地形をめぐり日本で唯一の氷河を眺望する。

⑤室堂山・浄土山とカルデラ展望 9月3日（日）

浄土山への登山道をたどりながら、立山の生い立ちや大地の変遷について観察。

⑥秋の弥陀ヶ原とカルデラ展望 9月30日（土）

弥陀ヶ原を散策しながら、地質地形や動植物、立山カルデラについて観察。

⑦秋の有峰と常願寺川砂防治水探訪 10月15日（日）

常願寺川をたどりながら、断層や動植物、大転石、砂防治水施設等を見学。

⑧立山の雪を体験しよう 2月4日（日）、2月11日（日）

雪について学んでから野外でかんじきハイクをして思いきり雪を体験。

(4) 特別講演会

特別講演会「日本の砂防、富山の砂防（仮）」の開催

(5) 移動博物館

①県民生涯学習カレッジ連携講座の開設

連携講座「魅力満載！立山の見どころまるごと探究！」を開催する。

②市民大学講座、地域公民館等との連携

市民大学や地域公民館等に学芸員が講師として出向き、「立山の雪氷」、「立山火山」、「地震と活断層」、「立山カルデラの動物」などの専門的な解説を実施する。

③立山砂防事務所との連携

児童・生徒を対象とした立山砂防探検隊、SABO体験楽校等への協力

④富山県砂防課との連携（土砂災害防止月間イベント）

砂防フェア2017（6月上旬）、子ども砂防教室（6月上旬～下旬）等の実施

⑤地元団体との連携

立山夏山開き「立山・称名滝の祭典」（7月、立山町）

とやまスノーピアード立山山麓「雪の祭典」（2月、富山市）等への参加

(6) サイエンスショーの開催 8月5日（土）、6日（日）

(7) 世界遺産登録推進シンポジウムへの協力

(8) 「博物館だより」等の発行

博物館だより（年3回）、イベントガイド（年1回）、ポスター（年1回）、イベントニュース（毎月）

(9) 博物館学芸員実習、教職員研修、14歳の挑戦事業等の受入れ

(10) 公式ソーシャルネットワーキングサービス

フェイスブックとインスタグラムを更新し、幅広い世代へきめ細かな情報発信を行う。

6 調査研究・資料収集

(1) 立山、立山カルデラの火山活動についての調査（含 文部科学省科学研究費）

火山活動が活発化している地獄谷や新湯について、継続モニタリング調査を実施し、近

年の活動状況を明らかにする。

《現状》地獄谷：噴気温度の経年変化が明らかになり、噴気場所の分布を確認した。

新 湯：これまでの観測より、近年では 1 ヶ月に数回干上がる間欠泉であること、水温が 65℃から 70℃付近で変化していることがわかった。

《H29》地獄谷、新湯とも変化が激しいことから、継続してモニタリングする。

(2) 明治期の治水砂防史料（高田雪太郎史料）の調査

県に寄贈された高田雪太郎史料の解読を継続し、明治期の富山県の治水砂防についての新たな知見を得る。

《現状》膨大な史料のリスト化を終えデジタル化作業を実施し、約 8 割の資料のデジタル化を完了した。

《H29》史料のデジタル化を完成させるとともに、日記の解読を進め、デ・レイケの立山カルデラ視察の詳細や土木工事の進捗状況を明らかにする。また、夏期企画展でこれまでの成果を展示紹介する。

(3) 立山連峰における氷河調査（含 文部科学省科学研究費）

ボーリング調査により氷河の特性や年代を解明し、また立山連峰に新たな氷河が現存する可能性を探る。世界的に特徴のある立山の雪氷について明らかにしていく。

《現状》三ノ窓氷河、御前沢氷河でボーリングを実施し、粒径の大きな氷河氷の存在や氷河流動の痕跡が明らかになった。また、内蔵助雪渓、池ノ谷雪渓でも流動を伴う厚い氷体があることが確認された。

《H29》内蔵助雪渓、池ノ谷雪渓の流動について、今後学会等へ発表し新たな氷河として位置づけを目指す。また、温暖化の進行の中で、立山の氷河群がどのように変動しているのかを探るため、御前沢氷河、内蔵助雪渓、剣沢雪渓において質量収支の調査を実施する。

(4) 立山カルデラにおける植生調査

フローラ調査により未調査地域の植物相を明らかにする。また、航空写真等を収集して立山カルデラの植生の遷移をモニタリングする。

《現状》他地域に比べ在来植物種が非常に多く、帰化植物・外来植物の割合が低いことが判明した。また、国内で希少なヤナギ類や、県内初記録の草本を発見した。また、植生調査の範囲を広げた。また、カルデラ内の植生の変遷を探るため、過去の航空写真（垂直写真）を調査収集した。

《H29》未調査地域の植物相を明らかにするとともに、植生の遷移についての情報を収集する。また、過去からの航空写真を解析することにより、植生の変遷、砂防工事の進捗による植生復元についての基礎情報としていく。

(5) 立山・立山カルデラにおける動物の生息・生態調査

立山カルデラ内に多く生息するツキノワグマの生態を発信器やGPSを用いて詳細に行う。また、近年生息数が増しているニホンジカやイノシシについて、その実態を明らかにする。さらに、工事関係者の動物遭遇事故防止の一助とする。

《現状》立山カルデラ内や立山の高山帯で、ニホンジカ、イノシシの目撃情報の収集を行い、高山帯でも増加傾向であることを確認した。さらに、立山カルデラ内の湖沼で希少な水生昆虫の生息が維持されていることを確認した。また、ツキノワグマの生態調査を実施した

《H29》気候変動に伴い県内や高山帯に移動してくる種（ニホンジカ、イノシシ等）の生息調査を継続して実施する。また、GPSを使ってツキノワグマの生態調査を実施し、立山カルデラ内での生態を明らかにして、危険防止対策に供する。

(6) 立山山岳地域における降水量、積雪量調査（含 文部科学省科学研究費）

未解明点の多い立山・立山カルデラ地域の積雪量を明らかにし、また近年の気候変動に対する応答特性を長期モニタリング調査により解明する。また、山岳地域での短時間豪雨の実態を明らかにするため、高い標高での降水量（雨量）観測を継続して実施する。

《現状》未解明だった高山地域の積雪量、冬期降水量が次第に明らかになり、冬期降水量は平均で3000mmを超え世界的な豪雪地帯であることが判明した。また、近年の温暖化で、平野部の積雪は減少しているが、高山地域の積雪はむしろ微増していることがわかった。

《H29》データが不足している高山地域での降水量モニタリングの観測点を標高ごとに増やして継続的に観測し、立山の標高別降水量の平年値を算出する。また、変動の激しい積雪量について、標高ごとの変動観測を継続して実施する。これらの結果をまとめて、立山の降水量、積雪量が世界的な値であることを実証し、世界遺産へ向けての基礎資料とする。

7 外国人対応

- (1) 3D映像の英語、中国語通訳レシーバー貸出
- (2) 2F常設展示の英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語解説タブレットの貸出
- (3) GW期間中に解説ボランティアが行う展示解説に通訳(中国人留学生)を配置
- (4) 英語、中国語による立山の自然や観察ポイントのパネル説明及び映像投影
- (5) ミュージウムガイドによる中国語での挨拶等
- (6) 英語、中国語による館内外掲示の充実

8 博物館友の会

- (1) 会員参加行事の充実(立山カルデラ砂防体験学習会、類似施設見学会等)
- (2) 友の会だよりの発行
- (3) ホームページの運用